富士に生きる―紙のまちの歴史と文化―
富士市立博物館
Fuji Municipal Museum

博物館だより

2014 7.18 64号

第53回企画展

“富士山の下に灰を雨らす”

～富士の噴火と古墳時代後期の幕開け～

ごあいさつ

今からおよそ1,500年ほど前の古墳時代に富士山南麓から噴火した「大淵スコリア」と呼ばれる火山灰は、近年における富士市域周辺の発掘調査の蓄積や研究によってその降下範囲や年代観が定まりつつあり、文献記録のない時代における富士山の確実な噴火事例の一つとして、現在注目されつつあります。

今回の展示では「大淵スコリア」の降下前後において、大きな変質を遂げる古墳時代社会の様子を御紹介していきます。また、同時期に起こったとされる富士川河口断層帯の活動や群馬県・榛名山の噴火もとりあげることで、度重なる災害で疲弊していたであろう古代人がとった「復興政策」を推理し、同じく震災後の社会を生きる現代の我々にとっても共有できる教訓を探っていきたいと思います。

「大淵スコリア」の堆積状況

（柏原遺跡６地区、富士市教育委員会提供）

Ⅰ　噴火の時代―低迷の５世紀―

３世紀以来継続して築かれてきた駿河・伊豆地域の大型首長墳の系譜は、４世紀後半頃の東坂古墳や三池平古墳の築造を最後に陰りをみせはじめます。一方、５世紀代を中心とした時期に、富士山が活発に活動していたこともわかってきています。この時期にヤマト王権などの外的要因の影響を受けつつ列島規模で首長たちの再編が進んだことは事実ですが、当該期の不安定な自然環境が有力首長の成長を妨げていたという内的要因についても、積極的に検討する必要があります。

Ⅱ　「大淵スコリア」の降灰

富士市の東部から沼津市の西部の地下には、「大淵スコリア」とよばれる富士山を起源とする火山灰が堆積しています。

このスコリアの降下時期は、近年明らかにされた集落遺跡の調査成果から、５世紀末頃（須恵器のTK23～TK47型式併行）のことと考えられています。

Ⅲ　新興首長の台頭

５世紀末頃の「大淵スコリア」噴出前後には、それ以前まで停滞していた前方後円墳の築造が、見事に再

長塚古墳の埴輪と土器（沼津市教育委員会蔵）

開し、しかも６世紀中頃までの短期間に各地域単位で同時多発的に築かれるという異例の状況を迎えます。埴輪や武具、馬具、須恵器などの最新の文物を備えた新しい首長たちが複数台頭する背景には、彼らを地方支配の基点としたヤマト王権による新しい支配秩序が見え隠れしています。

Ⅳ　富士山以外の同時期の災害

６世紀におこった富士川河口断層帯の活動と、北関東を代表する活火山の一つである榛名山の噴火について紹介します。渋川市の宮田諏訪原遺跡は、ヤマト王権の支援のもと、火山の鎮静化を願う祭祀がおこなわれていた可能性が指摘されており、噴火に対する古代人の心に迫ることのできる重要資料です。

Ⅴ　新しい時代の幕開け

「古代史上の文明開化」の時代に導入された、食器（須恵器）や住居の構造（カマド）、祭祀、馬文化といった様々な分野における新来文物と、それらを駆使した技術者集団の墳墓（群集墳）について紹介します。

駿河・伊豆地域の古墳時代の転換点である５世紀末以降の動向を「災害後の世界」という地域的なフィルターを通して見直せば、新来の技術や新しい政治を求める地域的な素地が、噴火や震災後の疲弊した地域社会で形成されつつあったとみることができるかもしれません。

深刻な災害を契機として、新しい文化を積極的に取り入れようとした古代人の姿勢は、今に生きる私たちにも多くの教訓を与えています。

（藤村 翔）

宮田諏訪原遺跡Ⅰ区１号祭祀跡出土品（渋川市教育委員会蔵）

多田大塚４号墳の副葬品（伊豆の国市蔵）

荒久城山古墳出土の馬具（学校法人 加藤学園蔵）

富士山東泉院の中世

～六所家総合調査速報展～

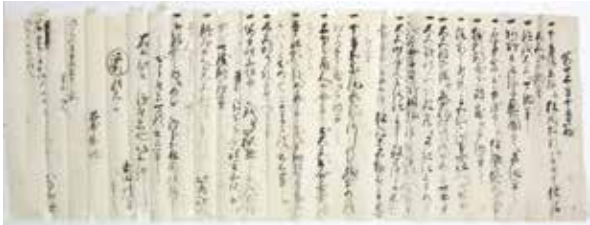
平成26年11月1日（土）～平成27年1月25日（日）

平成17年に、六所五郎氏・利子氏（ともに故人）から六所家主屋など建物とその中に残されていた古文書や民具などの資料の寄贈を受けました。これらの資料を調査するため六所家総合調査委員会を組織しました。歴史、美術、埋蔵文化財、建築などの分野に分け調査し、その成果を随時発表しております。

平成26年3月に歴史分野の1冊目となる『六所家総合調査報告書　古文書①』を刊行いたしました。その内容は、六所家旧蔵資料の中世文書のすべてと富士山縁起、近世文書の一部を翻刻したものです。

六所家旧蔵資料に残された中世文書は全部で19点あります。東泉院に関するものが14点（正本5、写9）と東泉院とは直接の関係はなく江戸時代のある時期から所蔵されたと考えられる獅子浜村（現沼津市）橋本家文書5点から構成されています。

この報告書を作成する以前は、六所家旧蔵資料の中世文書は18点と考えられていましたが、今回の調査によって新たに史料が1点発見されました。その史料は「徳川家康朱印状写」で富士郡下の寺社に関する年貢・兵糧・徴収銭などの扱い、納入先について17ヵ条にわたり定めたものです。正本が確認されていないため、写しではありますが貴重な史料といえます。



徳川家康朱印状写

今川義元判物

他の東泉院に関する中世文書は、東泉院の寺領安堵や諸役免除、勧進許可といった東泉院の権利を書き記したものが中心です。現在にいたるまで東泉院の権利を主張する史料を歴代の住持が、永い間守り伝えてきたことがよくわかります。

富士山縁起に関する史料は、富士山に関する由緒や、富士山信仰に関わる事柄について記した6点を翻刻し掲載しています。後世の写しではありますが、永禄3年（1560）と記された「富士山大縁起」（竪帳）をはじめ、元禄から正徳頃に東泉院9代住持圓成が写した「富士山大縁起」（巻子）、「富士山縁起」（巻子）などを紹介しています。

永禄3年　富士山大縁起（竪帳）

近世文書は、六所家旧蔵資料から次のA～Dのように分類し35点掲載しました。

A　東泉院及び浅間神社の由緒と縁起

東泉院と、入山瀬浅間神社、今宮浅間神社、滝川神社、富知六所浅間神社、日吉浅間神社の下方五社に関する由緒や縁起について記されたものを掲載しています。

B　東泉院歴代住持帳

住持帳とは、東泉院の歴代住持について記されたものです。「東泉院代々先師出処等」「東泉院代々記録」など何代にわたる住持帳もあれば、「東泉院住持兼院家光盛一代色々記録」など1代の住持について書かれたものもあります。

東泉院歴代の住持帳

C　近世初期文書

天正 18 年（1590）７月、小田原北条氏が滅亡すると、徳川家康が関東に入り、駿河国は豊臣秀吉の勢力下になります。その後、慶長５年（1600）の関ヶ原の戦いで駿河国は、再び徳川家康の支配下となりました。

権力者が変わるたびに、東泉院領の安堵を約束する朱印状を発行してもらうために住持は奔走することになります。ここでは、豊臣秀吉朱印状や徳川家康朱印状などを掲載しています。

D　東泉院朱印領慶長検地帳

駿河国では、慶長４年（1599）に中村一氏（なかむらかずうじ）によって検地が行われています。東泉院は、今宮村、神戸（ごうど）村、一色村、中野村の全村と今泉村の伝法村の一部を領地として持っていました。東泉院領の６ヵ村のうち、伝法村を除く５ヵ村の慶長４年の検地帳が残っています。富士郡で発見されたのは初めてで、大変貴重なものといえます。

慶長４年検地帳

東泉院の中世は、今川氏親（いまがわうじちか）の時代から文書が確認され、氏親の子・義元（よしもと）の使僧として忠誠を誓っていたことがわかります。河東（かとう）一乱のため駿河国東部は荒廃し、下方五社の修復もできない状態でした。

その後の東泉院は北条氏に従ったり、さらに武田信玄によって久能寺末とされたりと戦国の動乱の中で、様々な運命をたどった寺院であります。

この展示会では、このような激動の時代を過ごした東泉院の中世について、今回報告書で掲載した中世文書を中心に展示し紹介したいとおもいます。

また、報告書に掲載した富士山縁起、近世文書もあわせて展示し、東泉院の中世から近世にかけての実態についてもふれたいとおもいます。

来年３月には、「聖教」と「美術」編の報告書を刊行する予定にしています。六所家旧蔵資料の中から「聖教」「美術」分野の資料も展示をする予定です。

（井坂 武男）

※『六所家総合調査報告書　古文書①』は、
富士市立博物館にて 1,500 円で販売しております。

テーマ展

博物館 30 年のあゆみとこれから

平成 27 年 2 月 14 日（土）～ 5 月 10 日（日）

昭和 56 年（1981）４月の開館以来、33 年にわたり活動してきた富士市立博物館ですが、耐震工事や、展示室を新しい内容に改装する工事のため、この展示会終了後、一時休館をする予定です。

当館では、収集分野を考古、歴史、美術、民俗、紙の５分野にわけて収集してきました。現在整理中の六所家資料群を除き、これまで収集してきた資料は約４万点余りにのぼります。

この展示会では、これら５分野の収蔵品から、博物館の代表選手といえるような資料を紹介するとともに、これまで行ってきた展示会や体験学習などの活動や、リニューアル後の博物館の概要についてお知らせします。生まれ変わる富士市立博物館に、どうぞ御期待ください。

（高林 晶子）

開館前の富士市立博物館（昭和５６年）

開館準備の様子（昭和５５年頃）

富士市立博物館リニューアル構想の紹介（その2）

―新展示室　「富士山とかぐや姫」―

富士市立博物館は、昭和56年（1981）のオープン以来、様々な展示企画や体験講座等を実施し、皆様に親しまれてまいりました。しかしながら、特に近年、施設の老朽化や収蔵庫の不足、耐震基準を満たしていないなど、博物館を運営していくうえで解決していかなければならない多くの課題が浮上してきました。

そこで、当館では平成23年度に博物館のリニューアルの基本計画を取りまとめ、平成24･25年度の2ヵ年で、詳細な設計作業をおこなってきました。いよいよ、平成26・27年度の2ヵ年で耐震工事とリニューアルを実施することとなり、平成28年の初夏には新しい博物館として皆様をお迎えする予定です。

今回は、生まれ変わる博物館の目玉展示の一つ、「富士山とかぐや姫」の展示室を御紹介します。この展示室は、世界文化遺産となった富士山に対する信仰の姿を、地域に伝わるかぐや姫の物語や、村山修験（しゅげん）・岩淵の鳥居講（とりいこう）といったこの地域独特の素材から紹介するもので、以下のテーマを中心に構成されています。

①「竹取物語」へのいざない

展示室のイントロダクションとなる部分で、翁が竹の中で小さな女の子を見つけるシーンを映像と音響で表現するとともに、竹取物語にかかわる各種資料を実物やグラフィックで紹介し、皆様を竹取物語の世界へと誘います。

②富士山のかぐや姫

博物館にて現在実施している六所家総合調査の中で発見された「富士山大縁起」という資料には、かぐや姫は月に帰らずに富士山へと登り、富士山の祭神となったというストーリーが記されていることが明らかとなりました。そして、このストーリーは、資料の中だけには留まらず、この地域に定着し、現在にいたるまで語り継がれてきたのです。

ここでは、「富士山大縁起」に記されたかぐや姫の物語を造形物や映像で分かりやすく御紹介するとともに、各種資料から富士山とかぐや姫の結びつきの歴史をたどります。あわせて、地域の各所に残るかぐや姫の物語ゆかりの場所を映像やビジュアルで御紹介し、博物館をスタートに、各場所へ足を運んでいただくきっかけとなる場としたいと考えています。

③村山修験の姿

かぐや姫をはじめとして、富士山は神や仏が宿る山として信仰の対象となってきました。中でも、かつて富士山南麓に位置する村山の地を拠点に活動した村山修験の姿を、当館に寄託されている「大宝院秋山家資料」から探ります。

④南麓に受け継がれる富士山信仰−鳥居講−

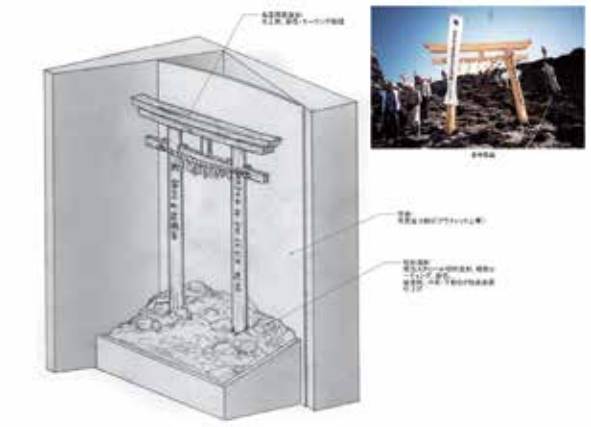
富士川の西岸、岩淵の地では12年に一度、申の年に富士山頂に白木の鳥居を奉納するという行事が、鳥居講というグループによって、江戸時代から現在まで途絶える事無く行われてきました。

一説では、岩淵はかつて富士川の渡船により潤った地であり、渡船の材を富士山中から得ていた事に対する返礼としてこの行事が始まったとされています。ここでは、ジオラマや各種資料から、地域の暮らしと富士山との信仰が密接に繋がっている非常に珍しい事例である鳥居講について御紹介します。

次号の博物館だよりでは、現在の第1展示室のリニューアル内容について取り上げる予定です。

（井上 卓哉）

富士山のかぐや姫造形物イメージ



山頂鳥居の再現ジオラマイメージ

教育普及事業活動報告

「戦時中の料理」

はじめに

富士市立博物館では生涯学習の重要性が唱えられている昨今、展示事業とともに博物館来館者のニーズに応える場として様々な体験事業を行っています。

小学生対象に戦時中の食生活を通してどのような生活をしていたか学んでもらうため、戦時中の料理を作る生活体験講座を平成25年8月7日（水）に広見公園内にある旧稲垣家住宅で開催しました。

企画段階

富士市立博物館では、歴史民俗資料館2階に戦争についての展示を行っています。

本講座は戦時中の暮らしについて展示内容を補足するための事業として開催し、料理を通して戦時中の暮らしを学ぶことで難しい展示内容にも興味を持って学ぶことができるようにしました。

献立作りでは講師の富士の語りべの会・橋口傑氏に聞き取り調査をし戦時中の料理の試作を行った結果、味の再現にこだわると現代の子どもたちには食べづらい味となることがわかりました。料理を味わうことで子どもたちに何を学んでもらうのか、美味しく味わってもらうのか不味さを体験してもらうのか本講座の目的について改めて考える機会となりました。

試作の結果を参考に、すいとんの硬さや味付けなどを考え直し、現代の子どもたちでも最低限味わえる程度の味としてまとめることとしました。

講座内容

戦争体験者から戦時中の話を聞き、お昼に向け、かまどで戦時中に食されていた料理をつくり、食事体験をすることとしました。

富士の語りべの会・橋口傑氏を講師として歴史民俗資料館では展示資料を題材に御講演をいただき、旧稲垣家住宅では囲炉裏を囲みながら疎開先での暮らしや生活について御講演をいただきました。

調理体験では、お昼に向けて戦時中に食されていた料理としてサツマイモ入り麦ごはんやすいとんを作りました。

食事後は館職員が戦時中の料理の背景にある当時の子どもたちの思いや生活についての話を行い、家庭で再現できるようにレシピを配布しました。

参加者のアンケートから

参加者からは「ごはんの量が少なくてびっくりした。」「すいとんが不味かった。」「楽しく学習できてよかった。」などの意見をいただき、講座を通して戦時中の子どもたちが、どのような生活をしていたのかを知ってもらうという当初の目的は達成できたと思われます。

体験事業の観点から博物館の改革をしていく上で、本事業が何を目的とし、何を伝えるのかを把握し、参加者のニーズに沿えるよう改めて検討し、今年度8月6日（水）に開催したいと思います。

（久保田 英聖）

話を聞く子どもたち

料理を食べる子どもたち

展示会案内

■　第 53 回企画展　H26.7/12（土）～ 10/13（月・祝）
“富士山の下に灰を雨らす”～富士の噴火と古墳時代後期の幕開け～

■　テーマ展　H26.11/1（土）～ H27.1/25（日）
富士山東泉院の中世　―六所家総合調査速報展―

■　テーマ展　H27.2/14（土）～ 5/10（日）
博物館 30 年のあゆみとこれから

子ども向けや親子体験講座

◆　夏休み親子実験室

①7/30（水）9:00 ～ 12:00 自然の素材 de 染めてみよう
②7/31（木）9:00 ～ 12:00 チラシからハガキ作り
③8/1（金）9:00 ～ 12:00 ホットプレートで紅茶作り
※①～③往復ハガキで抽選　7/22（火）消印有効

◆　旧稲垣家住宅での昔の生活体験

①7/29（火）　10:00 ～ 13:00　かまどでごはん
②8/6（水）　10:00 ～ 13:00　戦時中の料理
③12/23（火・祝）10:00 ～ 13:00　もちつき＆しめ縄作り
④1/12（月・祝）10:00 ～ 13:00　みんなの家のお雑煮
※①7/20（日）～　②7/27（日）～
③12/13（土）～　④12/27（土）～
いずれも電話または直接来館にて 9:00 ～申込み開始

◆　チャレンジ！そばっ子

そばの種まきからそば打ちまでを体験！４回連続講座
8/24（日）・10/26（日）・11/15（土）・11/30（日）
いずれも 9:00 ～ 12:00
※往復ハガキで抽選　8/10（日）消印有効

◆　親子どきやき体験

土器ペンダント作りと火おこし※年少から参加できます
①11/24（月・祝）②2/11（水・祝）いずれも 9:00 ～ 12:00
※①11/15（土）～　②1/31（土）～
いずれも電話または直接来館にて 9:00 ～申込み開始

一般向け体験講座

◆　陶芸歳時器

風鈴や干支など季節感あふれる陶器の作成
奇数月の第２土曜日　9:30 ～ 11:30
※原則開催月の第１土曜日 9:00 ～電話または直接来館にて申込み

◆　陶芸室自由開放日

陶芸中級者以上対象に、自由に作品を作ることができます
毎月第２日曜日　9:30 ～ 16:00
※開催日の 9:00 ～ 14:00 直接来館にて申込み受付

◆　チャレンジ！！陶芸

１回目は成形、２回目に絵付けする２回連続講座です
偶数月の第２・４土曜日　9:30 ～ 11:30
※原則開催月の第１土曜日 9:00 ～電話または直接来館にて申込み

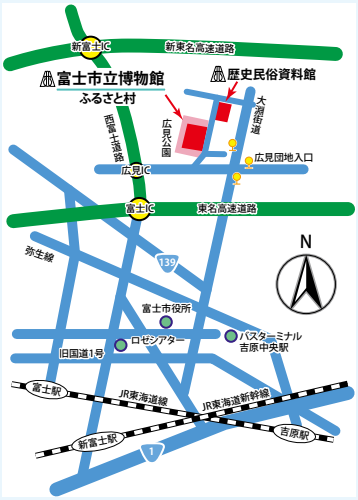
◆　葉彩画入門

落ち葉を用いて、思い思いの絵を描く３回連続の講座です
10/24（金）・10/31（金）・11/14（金）
いずれも 9:30 ～ 11:30
※ 10/16（木）9:00 ～電話または直接来館にて申込み

◆　手作り和紙工芸

和紙で凧をつくる３回連続講座です
12/6・13・20（土）　各 9:00 ～ 12:00
※ 11/21（金）9:00 ～電話または直接来館にて申込み

◎各講座、イベントともに内容・日時が変更する場合もあります。博物館 HP やチラシ、広報ふじ等で御確認ください。

富士市立博物館だより　No.64

発行年月日　平成 26 年（2014）7 月 18 日
編集・発行　富士市立博物館　Fuji Municipal Museum
住所　〒 417-0061　静岡県富士市伝法（でんぽう）66-2　TEL. 0545-21-3380　FAX. 0545-21-3398
HP. http://museum.city.fuji.shizuoka.jp/　E-mail. museum@div.city.fuji.shizuoka.jp
開館時間　4 月～ 10 月：9:00 ～ 17:00　11 月～ 3 月：9:00 ～ 16:30
休館日　月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日、12/28 ～ 1/5（年末年始）
入館料　大人 100 円（60 円）小・中学生 50 円（30 円）※（ ）は 20 名以上の団体料金
※「しずおかミュージアムパスポート」持参者は無料。
歴史民俗資料館（分館）　開館時間・休館日は本館に同じ　入館無料
博物館屋外展示（ふるさと村）　休館日なし 見学無料